

魅力ある授業のために（単元化例） 文学国語 書くこと

1 単元の目標

- (1) 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕 (1)イ
- (2) 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力〕 B(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2 指導と評価の計画

科目名	文学国語	学年類型	2年	単位数	4単位	話すこと 聞くこと	
単元名	佐藤一英の詩を基に、自分の故郷を題材に詩を作ろう （『われ死なば』）					書くこと	○
単元の評価規準							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。		詩を創作する活動を通して、化的背景をもとに、話し合う活動を通して既に学習した表現技法などを用いて創作し、粘り強く推敲してよりよい詩を創作しようとしている。			
主たる言語活動							
佐藤一英の詩を踏まえ、自分の故郷を題材に詩を創作する活動。							
時間	授業のねらい・主たる学習活動	重点項目			評価方法		
		知	思	態			
1	佐藤一英の詩「われ死なば」を読み、自分の故郷に対する思いを書き出す。 ①単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ②「われ死なば」を音読し、文語体と詩のリズムに親しむ。 ③詩から、郷土の詩人であることに気づき、作者について調べる。 また、表現技法に留意して詩を解釈する。 ④伊吹山や木曾川について、詩の中で言及する意図を考える。一宮出身にもかかわらず熱田の杉の根元で眠りたいという作者の思いを考察する ⑤西行の「願わくは花の下にて春死なん」など、どこで死を迎えたいか考え、その理由とともにワークシートに記述する。	○	○		・行動の観察 （音読） ・行動の確認 （ペアワーク） ・記述の確認 （ワークシート）		
2	故郷への思いを題材に詩を創作する。 ⑥「われ死なば」の形式を基に、言葉を調べながら詩を創作する。 ⑦創作した詩をグループで回し読みし、コメントを付ける。 ⑧コメントを参考に、詩を推敲する。 ⑨創作した詩はクラス全体で共有し、鑑賞する。 ⑩リフレクションシートに振り返りを記入する。		◎	◎	・記述の分析 （詩） ・記述の分析 （振り返り）		
定期考査		◎					

※重点項目について、「◎」は総括の資料とするもの、「○」は、総括の資料とせず、不満足な場合は何らかの指導を行う。

3 思考・判断・表現のルーブリック

観点	評価A	評価B	評価C
文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける工夫を凝らして自分の故郷への思いを込めた詩を創作している。	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付けるよう工夫して自分の故郷への思いを込めた詩を創作している。	故郷への思いを詩にしている。